

はじめの100か月の 育ちビジョン

専門職の方に向けた研修ガイドブック

乳幼児に関わる全ての専門職の方へ

全てのこどもの幸せ・ウェルビーイングを目指して、
『はじめの100か月の育ちビジョン』がはじまりました。

なぜ生まれたのか？ 目的は？
どんな内容なのか？ これからの取組は？

Q&Aで詳しくご紹介します。
ぜひ皆さんで共有してください！



古淵あおばこども園
保育士
遠藤 愛里沙さん

学習院大学教授・こども家庭審議会・
幼児期までのこどもの育ち部会長
秋田 喜代美先生

あおぞらウィンフルム保育園
園長
大野 智子さん

Q1.

『はじめての100か月の育ちビジョン』とは何ですか？

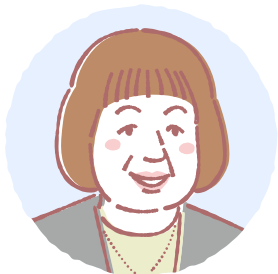


A1.

全てのこどもの『はじめての100か月』の育ちを社会全体で支えていくために、こども家庭庁を中心とした政府において、令和5年12月に、『はじめての100か月の育ちビジョン』が新たに閣議決定されました。

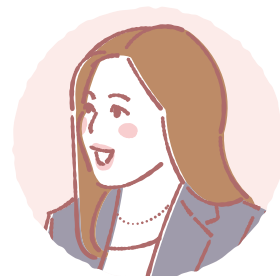
幼児教育や保育・子育て支援などの現場において、保育者や保護者の皆さんが、乳幼児と関わる上で重視し実践されている基本的な考え方を、改めて国として言語化したものです。

現在こどもへの関わりが薄い方も含めた全ての人で共有できるようにまとめました。



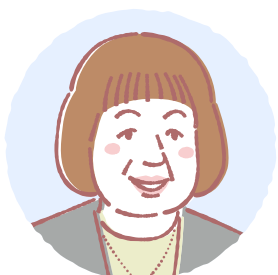
Q2.

『はじめての100か月』について、もう少し教えてください。

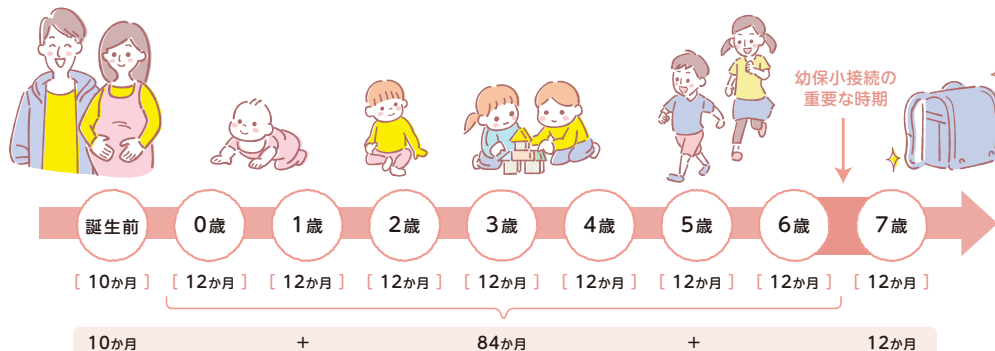


A2.

母親が妊娠してから小学校1年生までのだいたい100か月を指します。生涯にわたるウェルビーイング、身体・心・社会、つまりバイオサイコソーシャル全ての面での幸せの向上にとって、特に大切な時期なんです。この『はじめての100か月』に、こどもは様々な人、モノ、環境との出会いを繰り返しながら育ちます。人生の一番はじめてととても大切な時期なんです。

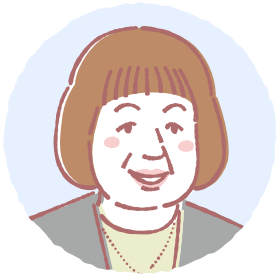


(図1)



Q3.

『はじめの100か月の育ちビジョン』はなぜ必要なんですか？



A3.

誕生から入園、入学の前後や、家庭・関係機関・地域などの間に、育ちの「切れ目」が数多くあります。

こどもの成長に応じた環境の変化が、育ちの「切れ目」にならないように、全てのこどもの『はじめの100か月』を社会全体で支援・応援していきたいと考え、専門家の知見やこども・若者の声をもとにビジョンにまとめました。

全ての人と理念を共有し、関連する施策や取組を力強く進めるための羅針盤として、『はじめの100か月の育ちビジョン』が策定されました。

(図2)

こどもの育ちを切れ目なく



生まれるとき



園などに入るとき



小学校に入るとき



家庭

園



こどもについての
関係機関



地域

POINT

ウェルビーイングとは？

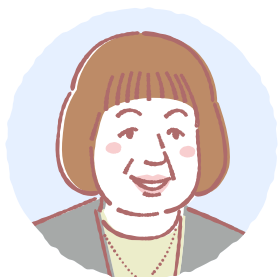
『はじめの100か月の育ちビジョン』では、「幸せ」のことを、身体・心・環境や社会全ての面で、「良い(well)状態(being)」にあることとして捉えており、これを専門用語で「ウェルビーイング」と呼んでいます。

バイオサイコソーシャルとは？

人間は、「身体(バイオ)」や「心(サイコ)」、「周りの環境や社会(ソーシャル)」によって、形づくられています。これら3つの状況を全体として見ることで、こどもがどのような状態にあるかを把握することができます。こどもと関わる上でも、バイオ・サイコ・ソーシャル全ての面で良い状態を目指すことが大切です。

Q4.

ビジョンの具体的な内容を教えてくださいませんか？



A4.

今回、全ての人で大切にしたいことを以下の5つのビジョンにまとめました。

- 01 こどもの権利と尊厳を守る
- 02 「安心と挑戦の循環」を通してこどものウェルビーイングを高める
- 03 「こどもの誕生日前」から切れ目なく育ちを支える
- 04 保護者・養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援をする
- 05 こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す

それでは、ひとつずつ見ていきましょう。

ビジョン
01

こどもの権利と
尊厳を守る

ビジョン
02

「安心と挑戦の循環」を通して
こどものウェルビーイングを高める

ビジョン
03

「こどもの誕生日前」から
切れ目なく育ちを支える

ビジョン
04

保護者・養育者のウェルビーイングと
成長の支援・応援をする

ビジョン
05

こどもの育ちを支える
環境や社会の厚みを増す



こどもの権利と尊厳を守る

全てのこどもに権利があります。

こども一人ひとりの思いや願いを大切にしていきます。

全てのこどもは、生まれながらに権利を持っています。また、乳幼児であっても、声にならない声を含めた、様々な思いや願いを持っています。

周りのおとながそれを汲み取り、こどもにとって何が一番良いのかを考え、こどもの主体性を尊重することが大切です。

(図3)



Q5.

毎日の仕事の中で、どのような意識でこどもと関わるのが大切だと思いますか？

A5.

幼児教育・保育などの現場においても、相手が乳幼児だからと言って、必ずしもこども扱いばかりをするのではなく、おとなと同様に権利を持った一人の人間として尊重し、関わっていく視点や意識が大事なのではないかと感じました。

自分や周りの保育者が無意識にふさわしくない行動を取っていないか、これを機に見直してみたいと思います。



～実践の中で～

一人の人格を持った人として関わる

こどもが今、何に興味を持ち、何を伝えようとしているのか、一人ひとりよく見るようにしています。まだうまく言葉で言い表せないときには、こどもの気持ちを表現する言葉を一緒に探すこともあります。

こどもが「自分の気持ちをわかってもらえた」と感じ、身近な人を信頼でき、安心して成長できるように、一人の人格を持った人として関わることを意識しています。



「安心と挑戦の循環」を通して こどものウェルビーイングを高める

こどもは、おとなとの「アタッチメント(愛着)」「安心」を土台として、
「遊びと体験」「挑戦」を繰り返しながら成長していきます。

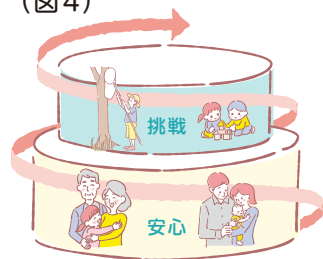
こどもが不安なときなどに、保護者や保育者などの身近なおとなに寄り添ってもらう経験を繰り返す中で、「アタッチメント(愛着)」が形成されていきます。この「アタッチメント」を土台に、様々な人や環境と関わる中で、こどもは豊かな「遊びと体験」を通して、自分の世界を広げていきます。この「安心と挑戦の循環」が、乳幼児の成長においてとても大切です。

POINT

アタッチメント(愛着)とは?

乳幼児が自分や社会への信頼感を得るために不可欠であり、こどもの自他の心への理解や共感、健やかな脳や身体を発達させていくものです。こどもが「アタッチメント(愛着)」を形成する対象としては、保護者・養育者が極めて重要ですが、保育者などこどもと密に接する身近なおとなも愛着対象になることができるとされています。

(図4)



Q6.

日頃のこどもとの関わりの中で、どんなことが大切だと感じますか?

A6.

保護者・養育者だけでなく、私たちこどもに関わる専門職もこどもに安心感を与えることが大切で、「遊びと体験」の機会を提供することができると思います。「安心と挑戦の循環」は、こどもの育ちを支える幼児教育・保育などの現場においても、みんなで大切にしていきたいと感じました。

入園したての頃は不安でいっぱいだったこどもも、園で保育者と触れ合う中で段々と安心感を持つことができ、こどもなりの遊びの展開や興味の範囲が広がったりしていく様子を見てみると、成長が実感できてうれしく感じます。



～実践の中で～

「安心できる人」と思ってもらえるように

「安心」という思い浮かぶのは、入園したばかりの子です。まだ慣れない時期は、保護者にくっついて離れられないことも。保育者が丁寧に関わり、肯定する中で、こどもが少しずつ「この人は安心できる人だ」と認識してくれると、だんだん他のことに興味を向けられるようになっていきます。

「不安になったとき、悲しくなったときはいつでもおいで」とこどもを受け止めることで、自分の安全な場所がわかると、離れていても、もう少し頑張ってみようという気持ちでこどもの中に芽生えてきます。これがまさに「安心と挑戦の循環」だと思います。



「やってみたい!」の気持ちを大切に

「遊びと体験」は毎日の生活の中で経験し、培うことができると思います。ある日、公園で見つけたバッタを「育ててみたい」というこどもの提案から、園で飼育することになりました。どんな風に育てたらよいかわからないので、こどもたちみんなで調べたり、観察したりしました。

誰かの興味が友達を通して自分の興味になったり、知らないことを知る喜びと自信が、その先の関心や意欲につながったりするので、いろいろな自然や人に触れる経験は積極的に取り入れています。



「こどもの誕生前」から切れ目なく育ちを支える

こどもの成長に応じた環境の変化が育ちの「切れ目」を生まないように、
全ての関係者で連携して育ちを支えることが重要です。

こどもの誕生や入園・入学の前後など、大きく環境が変わるときには、育ちの「切れ目」が生まれやすいため、特に注意してこどもを見守ることが必要です。

また、家庭や園、関係機関、地域といった関係者がネットワークをつくり、こどもを支えていくことも大切です。



Q7.

こどもの育ちを切れ目なく
支えるために、意識している
ことは何でしょうか？

A7.

常日頃から、保護者の方や、地域の保健師さん、小学校、自治体、
地域の方々などと積極的に連携することを意識しながら、多様な
こどもの状況と一緒に見守り、育ちを支えています。

このような連携の姿勢は、特に見守りが必要なこどもだけではなく、全
てのこどもを見守る上でも大事にしたい視点だと思います。
ビジョン3を踏まえて、これからも「切れ目なく」をキーワードに、取り組
んでいきたいと思いました。



～実践の中で～

地域とのつながりを、私たちから

地元の幼稚園や小学校と顔の見える関係をつくるために、交流を行っています。
小学校へ入学したときに、知っている友達に会えると心強い思いをしたり、新しい
環境でも不安や心配を解決したりすることができるようです。
また、地域の子育てひろばや自治会とも積極的につながりを持っています。旗
当番の方や、コンビニの店員さん、マンションの管理人さんなど、こどもがた
くさんの
知り合いに見守られて成長していくことが大切だと思います。

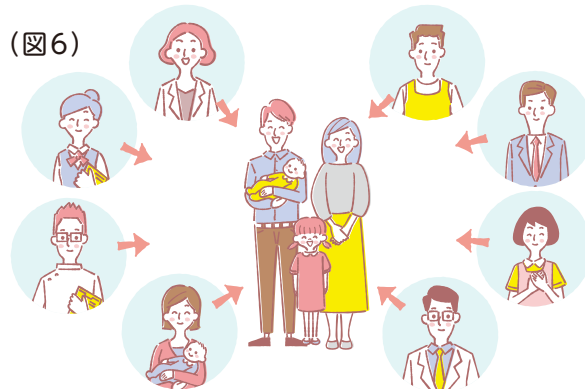


保護者・養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援をする

こどもに最も近い存在の保護者・養育者がこどもとともに育つことができるように、様々な人や機会を支えていきます。

保護者・養育者が子育ての悩みを抱え込まないよう、健診や通園、子育てひろばなど、あらゆる機会をいかして保護者・養育者とつながっていくことが大切です。

様々な場面で専門職に支えられることで、保護者・養育者が安心してこどもを育て、こどもとともに育っていくことができます。



Q8.

保護者や養育者の方々と接する際に、どんなことを心がけていますか？

A8.

『はじめの100か月』は、こどもだけでなく、保護者・養育者にとっても子育ての最初の時期です。だからこそ、特に手厚く支援・応援していくことを心がけています。

この時期に、専門職の私たちがその専門的知見をいかし、保護者・養育者の子育てに伴走し、その成長を促す支援・応援が重要となります。

日頃からこどもと直接関わり、様々な影響を与える周囲のおとなが生き生きとしていることは、「こどもの健やかな育ち」という面でも大事だと思います。

だからこそ、専門職の立場からも、保護者・養育者の皆さんが安心してこどもと関わっていくことができるように、園でのこどもの様子を伝えたり、家庭での困りごとを聞いたりするなど、積極的に声かけやコミュニケーションを取っていくことを心がけています。



～実践の中で～

保護者にとっても安心できる園に

地域の園は、こどもだけでなく、保護者にとっても「魅力的なコミュニケーションの場」になることができます。園は、保護者がこどもを通じて同じように子育てをする仲間と出会い、情報交換をし合ったり、ときには専門職に子育ての悩みを相談したりすることができる場所です。

それでも、実際に園にこどもが通っていないと、近くにあってもなかなか一歩が踏み出せないこともあると思います。そのため、できるだけ地域に開かれた身近な園を目指して、子育て中の皆さんが気軽に楽しく立ち寄れることをコンセプトに、園づくりに取り組んでいます。



こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す

こどもや子育てに直接関わりがある人も、ない人も、
全ての人がこどもの育ちにとって大切な役割を担っています。

全ての人がこどもの育ちを支え、応援することができます。

地域における専門職の連携や、開かれた園づくり、コーディネーターの活動などを通して、こどもと関わりがある人も、ない人も、地域全体でこどもの育ちを支える「こどもまんなか社会」を目指していくことが重要です。

(図7)



Q9.

「『こどもまんなか社会』を目指していくことが大事」というのがビジョン5の趣旨だと思いましたが、具体的には、どのようにしたら「こどもまんなか」の地域や園のあり方を実現していくことができるのでしょうか？



A9.

「こどもまんなか」とは、決して難しいことではありません。また、必ずしもこどもだけが大切にされるということでもありません。

家庭や園だけでこどもを頑張らせて育てるのではなく、まち全体の中で一人ひとりのこどもが大切にされ、笑顔があふれ、人生の『はじめの100か月』を健やかに育てていくことができる社会を想像してみてください。私たちおとなにとっても住みやすく、居心地の良いまちだと思いますか？

この視点を意識して、地域の方々も参加していただきながら、専門職としてこどもの見守りを行っていくということが大切なのではないのでしょうか。



Q10.

実際に現場で働く私たちに期待することは、どんなことでしょうか？



A10.

こどもに関わる専門職の皆さんは、第1に乳幼児との関係で「アタッチメント(愛着)」の対象になり、こどもに安心を与えることができます。

第2に、豊かな「遊びと体験」を保障することもできます。

第3に、保護者・養育者との関係では、その成長に伴走し、専門性をいかしてそれらの方々の声を聞き、アドバイスをするということが大切です。

また、今後は、家庭や園だけにとどまらず、地域社会全体でこどもを育てていくという視点から、こどもたちと地域の方々の橋渡しをする重要な役割も担っておられます。日々の仕事の中でこどもたちや保護者・養育者の皆さんと関わる際に、『はじめの100か月の育ちビジョン』を大切にいただけたらうれしいです。

また、ビジョンは、専門職の皆さんがこれまで大切にされてきたことを国として表現したものです。この考え方を、これまでこどもに関わりの少なかった人たちにも共有し、広めていきたいと思います。

皆さんが保護者・養育者や地域の方々とコミュニケーションを取られる機会にも、ぜひ、このビジョンを対話のきっかけとして活用してみてください。

ビジョン全体を踏まえて

園に通うこどもや保護者・養育者だけでなく、地域の人々のために益となる情報の提供や相談窓口を設け、地域との連携や交流を大切に行っていきたいと思います。

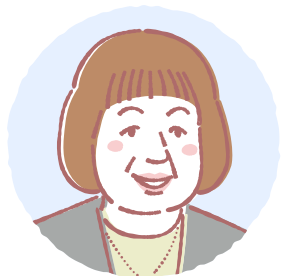
離乳食教室や赤ちゃん広場などを開催し、地域で子育てされている方々が気楽に利用できる施設づくりを目指していきます。

私たちはこどもに関わる専門職として、地域の中で頼りになる子育ての相談者として、また、かかりつけ医のようないつでも近くにいる身近な存在として活躍していきたいと思います。



Q11.

今後、ビジョンを踏まえてどんな取組が行われていきますか？



A11.

こども家庭庁を中心に、今後、国では、様々なこども政策が進められていく予定です。その際には、それぞれの取組にはビジョンの考え方が反映されていきます。さらには、ビジョンの理念や基本的な考え方を社会全体に広く共有していくことで、全ての人とビジョンを実現していく取組が行われていきます。

高い専門性を持った専門職の皆さんは、保護者・養育者とともに、こどもを傍らで見守っている大切な方々です。国としても、そうした皆さんの役割を一層後押ししていけるよう、具体的に取り組んでいきます。

ぜひ、皆さんでビジョンを共有して、こどもの育ちを支えていきましょう！

そして一緒に、『こどもまんなか社会』をつくっていきましょう！

『はじめの100か月』は、生涯の幸せを育てます。
みんなで大切に、『はじめの100か月』。





こどもまんなか
こども家庭庁

幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン(はじめの100か月の育ちビジョン)
こども家庭庁Web

https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo_sodachi

